

奈良 ゆみ

ソプラノ リサイタル

明治・大正・昭和に凛々しく生きた
日本の女性作曲家たち

日本の近代黎明期を生きた女性作曲家たちは、
厳しい社会的状況に加え、個人的な制約も背負いながら、
凛々しく情熱を秘めて創作を続けた。
5人の歌心を現代に生きる人々への
また新たなメッセージとして伝えたい。



photo: Brigitte Enguerand



松島 彝



外山 道子



渡 鏡子



金井 喜久子



吉田 隆子

歌、太陽のように・・・



“元始、女性は太陽であった、
平塚らいてふ（らいちょう）のこの言葉を知った時、
私は、人生の中での苦しみや悲しみも、
すべて光と変えて歌っていこう！
と深く心に誓いました。 — 奈良 ゆみ — ”

ピアノ：渡具知 愛

照明：中川 健二

2017年 **12月20日** (水) **18:30** 開演 18:00 開場
入場料《全自由席》／【一般】前売 5,000 円 (当日 5,500 円) 【学生】 3,000 円

王子ホール【東京銀座】

主催：ラ・プレイヤード 助成：公益財団法人朝日新聞文化財団 後援：モーツァルト・サロン

チケット取扱い ラ・プレイヤード／TEL: 090-5057-1211 Email: nqg01636@nifty.com

王子ホールチケットセンター／TEL: 03-3567-9990

プログラム Programme:

松島 舜 Tsune MATSUSHIMA 【1890-1985】

ワルツ 【1933】 ~ piano solo ~

しのぶれど (平兼盛) 【1929】

真珠 (武内俊子) 【1943】

春のあした (尾上柴舟) 【1916】

崩るる蕾 (句仏上人) 【1919】

外山 道子 Michiko TOYAMA 【1913-2006】

「やまとの声」より 【1937】

祈り (万葉集)

山彦 (古今集)

渡 鏡子 Kyoko WATARAI 【1916-1974】

母上に (野長瀬正夫) 【1944】

祭りのまへ (北原白秋) 【1953】

モクマオウの街 (江間章子) 【1972】

ママの立ち話 (柴野民三) 【1968】

金井 喜久子 Kikuko KANAI 【1906-1986】

琉球舞踏組曲「月夜の乙女たち」【1944-47】 ~ piano solo ~

「沖縄のうた」、「沖縄のわらべうた」より 《編作曲》 【1945】

東西東西 (岸和一郎)

ていんさぐの花 (金井喜久子: 訳詞)

与那国の子猫 (金井喜久子: 訳詞)

宮古の子守唄

絶筆 (矢野克子) 【1951】

吉田 隆子 Takako YOSHIDA 【1910-1956】

ポンチポンチの皿廻し (中村正常) 【1931】

鎌 (中野鈴子) 【1932】 ~組曲「道」より~

お百度詣 (大塚橋緒子) 【1953】

君死にたまふことなかれ (與謝野晶子) 【1949】

都合により、曲目が変更する場合がございます。予めご了承ください。

◆ 松島 舜 (1890-1985)

「おうまのおやこ……」「赤い鳥小鳥」の作曲家。1911年東京音楽学校ピアノ科を卒業後、作曲を学ぶ目的で同校研究科に進学。女性作曲家のバイオニア。教育の分野で多大な功績を残した。

◆ 外山 道子 (1913-2006)

大阪中之島の大富豪の家庭に生まれ、17歳でフランスに渡り作曲をブーランジェに学ぶ。1937年、ワグネル国際現代音楽祭で日本人として初の国際コンクールで入賞。戦後、パリ国立音楽院でミヨー、メシアンに師事。

◆ 渡 鏡子 (1916-1974)

東京出身で陸軍中尉の娘として恵まれた環境に育ち、1932年東京音楽学校作曲科に入学。チェコ音楽の研究をすると同時に作曲活動にたずさわった。ショウレックの『ドヴォルジャーク』の訳書を出版。

◆ 金井 喜久子 (1906-1986)

沖縄県宮古島の出身。1927年日本音楽学校に声楽を学び、その後、東京音楽学校の専科作曲科で学ぶ。沖縄民謡の旋律と素材を基調に置いた幅広い分野の作品を手がけ、故郷の沖縄音楽の普及に努めた。

◆ 吉田 隆子 (1910-1956)

プロレタリア音楽同盟に加盟、生涯反戦と女性解放を主張し続けた。歌曲「君死にたまふことなかれ」を作曲、更にこの曲のオペラ化に着手したが未完のまま病没。歌曲「ポンチポンチの皿廻し」はデビュー間もない頃の作品である。

奈良ゆみ / ソプラノ

Yumi Nara, soprano

相愛大学音楽科卒業後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に入学、メシアンに注目される。以後パリを拠点としてヨーロッパで各地で演奏活動を展開。色彩感にあふれた声と創造的な表現力は、とりわけ現代音楽の分野で注目を集め、デュサパン、ダオ、エロワ、松平頼則、平義久をはじめ多くの現代作曲家から曲を捧げられている。

パリ・オペラ座で演奏されたメシアン『ハラウィ』をはじめとして、シェーンベルク『月に憑かれたピエロ』、オハナ『三つの御花の物語』、『サティとフランス六人組』やラヴェル『シェヘラザード』などが高い評価を受ける。さらに、西鶴『好色一代女』のテキストを使ったジャン＝クロード・エロワの『仏明会』や、松平頼則のモノ・オペラ『源氏物語』の歌手として、日本の音楽・文化が西洋の現代音楽と結びつく可能性を明示した。

東京でドビュッシー『ペレアスとメリザンド』(ジャン・フルネ指揮、東京都交響楽団)を歌う他、日本各地でクリエイティブなテーマでリサイタルを行っている。パリで開催されたメシアン生誕100年記念オープニング・コンサートでは『ミのための詩』を歌った。(Pf: ロジェ・ムラロ)

CD録音も多く、『ドビュッシー歌曲集』(Pf: クロード・ラヴォワ)は、『ル・モンド』仏音楽誌で最高推薦盤に挙げられている。

ホームページ <http://www.yuminara.com>

渡具知 愛 / ピアノ

Ai Toguchi, piano

沖縄県に生まれる。東京音楽大学器楽専攻(ピアノ)出身。これまでに、大宜見良子、川上昌裕、三浦捷子各氏に師事。

沖縄県立開邦高等学校在学時に、琉球新報社主催音楽コンクールでピアノ部門1位、第27回沖縄ピアノコンクールの大学・一般の部で金賞、併せて市長賞を受賞。現在、那覇市の城岳混声合唱団専属ピアニストおよび森の音楽館、music studio 森のピアノ講師を務めると同時に室内楽での演奏活動を意欲的に行っている。

2009年奈良ゆみとのでこホール公演で見出され、定期的にパリにて世界的な現代音楽のピアニスト、ジェイ・ゴットリーブやモニック・ブーヴェ(元パリ国立高等音楽院教授、パリ国立歌劇場ピアニスト)のレッスンを受ける。

2017年4月、浦添市でこホール 開館10周年記念事業として、奈良ゆみと共にオリヴィエ・メシアン『ハラウィ』と松平頼則の作品を演奏し好評を博した。今後の活躍が期待される新進気鋭のピアニストである。



【東京銀座】

王子ホール

東京都中央区銀座4丁目7番5号
TEL: 03 - 3564 - 0200

- ・JR『有楽町線』下車
銀座口から徒歩7分
- ・地下鉄『銀座線』下車
A12出口から徒歩1分
- ・地下鉄『銀座一丁目線』下車
9出口より徒歩5分
- ・地下鉄『東銀座線』下車
A2出口から徒歩2分